Utatsuyama Koen Park

卯辰山公園

うたつやま こうえん

緑と歴史のふれあい

共催

ライオンズクラブ国際協会
334D地区 4R3Z
- 金沢東ライオンズクラブ
- 金沢南ライオンズクラブ
- 金沢尾山ライオンズクラブ
- 金沢ひかりライオンズクラブ
- 金沢伏見ライオンズクラブ
- 金沢みどりライオンズクラブ
- 金沢パークライオンズクラブ

金沢市都市整備局 緑と花の課

お問合せ先

金沢市都市整備局 緑と花の課（電話：220-2356）

卯辰山の碑

卯辰山は、顕彰碑・功労碑・歌碑・句碑・書碑などの建立の場として市民に利用され、歴史探訪の場にもなっています。主なものを以下に紹介いたします。

（以下の出典・金沢市「卯辰山碑マップ」2013）

A 徳田秋声文学碑（含室生犀星詩板）

とくだしゅうせいぶんがくひ

1871～1943／小説家

本名徳田末雄は金沢市生まれで、明治27年（1894）尾崎紅葉の門に入りました。処女作「薮柑子」を初め多数の作品を発表、明治・大正の代表的作家となりました。武家屋敷の塀を模した白壁に瓦屋根つき土塀の形をした徳田秋声文学碑は、金沢市出身の工学博士谷口吉郎の作です。壁面右上には、秋声の自筆で「書を読まざること三日、・・・」と記した標柱が建っています。秋声碑の左下には犀星自筆の秋声の略歴や「生きのびてまた夏草の目にしみる」の辞世の句が、九谷焼陶板三枚に焼いて取り付けられています。

B 卯辰山公園創設記念碑

うたつやまこうえんそうせつきねんひ

昭和2年（1927）建立の碑は「卯辰山公園創設記念碑」と刻まれています。この題字は金沢市出身の元文部大臣中橋徳五郎の筆です。この碑の横には、「卯辰山公園記」が建てられており、慶応3年（1867）の開拓から、昭和3年（1928）の公園完成までの沿革が記してあります。

C 泉鏡花句碑

いずみきょうかくひ

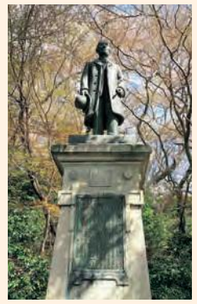
1873～1939／小説家

本名は、泉鏡太郎、金沢市生まれで、明治23年（1890）上京し、翌年、尾崎紅葉の門に入りました。同29年（1896）の「照葉狂言」でその本領を発揮するに至りました。彼の作品は、抑圧された庶民、ことに女性への同情を主題にしていたといえます。碑面上部に「鏡花先生の碑」下部には「はゝこひし夕山桜峰の松 鏡花」の句が刻まれ、裏面には略歴などが刻まれています。

D 津田米次郎翁碑・像

つだよねじろうおうひ・ぞう

1862～1915／織機製造



金沢市生まれで、明治13年（1880）わが国の動力織機の初めとなる木綿力織機を案出しました。のちに津田式絹力織機を完成させました。豊田佐吉の綿自動力織機とほぼ同時代です。さらに工夫を凝らし絹織物業界の急速な発展に寄与しました。大正6年（1917）建立の津田米次郎翁の銅像と昭和34年（1959）の顕彰碑が並んでいます。銅像は、太平洋戦争末期の金属供出をまぬがれた珍しいものです。

E 西田幾多郎先生 旧跡

にしだきたろうせんせい きゅうせき

1870～1945／哲学者

かほく市の生まれで、明治27年（1894）東京大学哲学科修了後、西洋近代哲学を研究しました。同33年（1900）三々塾をつくり、四高生を指導、かたわら禅道の修行にも励みました。「善の研究」などの哲学書を著し、昭和16年（1941）文化勲章受章しました。ここは西田幾多郎が参禅のため、約9年間通った、国泰寺住職雪門禅師の草庵「洗心庵」の跡です。

① 歴史的変遷

～ 藩政期 ～

卯辰山一帯は城下を見下ろす位置関係を理由に藩が警戒を厳しくしていた場所であり、幔幕を張ることや鉄砲を放つことを禁じていたことが知られています。しかし、当時においても、花見、紅葉や月見の名所として有名で、藩末にはキノコ狩り、寺社参拝、蓮如忌の酒宴など大衆の娯楽の場として定着していました。

卯辰山頂上部の様子　　出典：「卯辰山開拓前図」卯辰山開拓録

② 歴史的変遷

～ 藩政末期 ～

加賀藩第14代前田慶寧（よしやす）により慶応3年（1867）から明治元年（1868）にかけて初めての大規模な開拓事業が行われました。この事業は、当時の西洋の医療や福祉制度の導入を計画したものであり、養生所（医療施設）、撫育所（福祉施設）、所作所（作業所）が設置されました。「卯辰山開拓録」（内藤誠斎著）によれば、山麓各所に陶器、漆器、鍛冶などの工房群が建てられ、芝居小屋、料理店、風呂屋などの娯楽施設も備えられており、併せて、これらの施設は一般に広く開放されたため、一帯は大いに賑わったと伝えられています。この開拓事業は明治維新により頓挫し、山上は跡地として寂れた状態となりました。しかし、山上からの眺望が良いため、春秋の行楽期には遊山のため入山する人々も多かったといわれています。

養生所の様子

〈養生所〉
貧民を病苦から救うためにと藩主の命により慶応3年（1867）6月11日卯辰山開拓と同時に新築にとりかかり10月に完成しました。町民は殿さまのご仁徳に感謝し町方と一緒にこの事業に協力、毎日数千人の人で賑わいました。
出典：「養生所」卯辰山開拓録

③ 歴史的変遷

～ 明治～大正 ～

明治維新を迎えて多くの施設は廃止されることになりましたが、一般大衆の憩いの場としての整備は引き続き行われました。明治6年（1873）、山頂付近6.6haが墓地に指定され、同13年（1880）には、28ha余が市街地（当時は金沢区）に編入されました。明治35年（1902）には、荒廃していた卯辰山に風致林を設置することが決定され、5ヵ年計画でマツ、スギ、イチョウ、ヒノキ、クヌギなど16万本を植える事業が実施されました。

明治42年（1909）、金沢市は卯辰山を公園として整備する卯辰山遊園地造成計画を策定し、墓地の整理等を進め、大正3年（1914）、卯辰山公園としての利用に供しました。また、大正5年（1916）には、幅員4.6m延長700mの卯辰山記念道路（天神橋～山頂付近）が開通し、山頂には公設運動場を整備しました。

④ 歴史的変遷

～ 昭和～現在 ～

昭和に入ると、卯辰山は、公園とは別に兼六園の借景や都市の近郊緑地として、自然風致を維持するために重要な役割を担い、昭和12年（1937）、卯辰山一帯は、都市計画法（旧法）による風致地区制度に基づく県内第1号に指定されました。

また、金沢市の事業によりスキー場の建設、遊歩道、ドライブウェイの整備など、施設の充実が図られました。

昭和33年（1958）山頂付近に民間開発により劇場、レストラン、浴場、宿泊施設等を設けた娯楽施設が建設され、県内唯一の動物園、水族館もでき、平成6年（1994）、動物園が石川県に引き継がれるまで長く市民に親しまれました。なお、動物園は平成11年（1999）に辰口町（現 能美市）に移転しました。

現在、スキー場や動物園などの跡地は、緑地や広場等として再整備されています。

参考文献
- 金沢市『金沢市史　資料編17　建築・建設』 1998
- 金沢市『金沢の文化的景観　城下町の伝統と文化　保存調査報告書』 2009

おすすめポイント 1

眺望の丘

平成31年に、花菖蒲園との回遊性を高め、新たな眺望を楽しめる広場として整備しました。東山・森山界隈の街並み越しに、金沢港～河北潟方向に広がる景観を一望できます。アジサイ3,000株、サクラ12本、ヤマモミジ14本が植えられ、四季折々の緑と眺望を楽しむことができます。
駐車場あり（一般車P14台、バスP3台）

おすすめポイント 2

望湖台

遠く河北潟や日本海を望むことができます。（駐車場16台）

おすすめポイント 3

花木園

平成5年に、卯辰山スキー場跡地にツツジを鑑賞できる花木園として整備しました。ツツジ12品種、約8,000本植樹し、4月下旬から5月中旬にかけて鑑賞することができます。

移ろう季節を
さまざまな草花で
楽しめます

エリアMAP

おすすめポイント 4

花菖蒲園

昭和57年に「金沢400年記念事業」として、卯辰山中腹につくられました。
上段は「段々畑の花菖蒲」、中断は「せせらぎと花菖蒲」、下段は「池と花菖蒲」をそれぞれテーマとしています。花菖蒲100品種約20万本、アジサイ約2,900株を植樹し、6月中旬から7月中旬まで鑑賞することができます。
（花菖蒲園駐車場11台）

おすすめポイント 5

見晴らし台

浅野川上流の山間部からまちなかまでを見渡すことができる展望芝生広場です。芝生の中央には、風の彫刻家新宮晋氏の風で動く作品「風の樹」があります。医王山・戸室山～小立野台地～白山～大乗寺山～金沢城公園～金沢駅方面までの壮大なパノラマ眺望景観を楽しむことができます。

おすすめポイント 6

四百年の森

昭和57年に「金沢400年記念事業」として、卯辰山公園の中腹に整備したもの。350本の桜を植樹し、4月上旬から中旬にかけて鑑賞することができます。
※見頃の時期は駐車場が混み合いますので、400年の森へ降りる坂に入ってすぐ左側にある2箇所の駐車場およびグラウンド横駐車場（合計P107台）をご利用ください。